地方独立行政法人長野県立病院機構
令和元年度　評価結果

令和２年９月

長　野　県

長野県は、地方独立行政法人法（平成15年法律第118号）第28条第１項に基づき、次のとおり地方独立行政法人長野県立病院機構（以下「病院機構」という。）の令和元年度における業務の実績に関する評価（以下「年度評価」という。）を行った。

第１　年度評価の概要

１　年度評価の目的

年度評価は、評価対象年度以降における病院機構の業務の質の向上、業務運営の改善及び効率化、透明性の確保に資すること等を目的とする。

２　年度評価に関する基本方針等

年度評価は「地方独立行政法人長野県立病院機構の評価に関する基本方針」及び「地方独立行政法人長野県立病院機構の各事業年度の業務実績に関する評価実施要領」（以下「実施要領」という。）に基づいて行う。

３　年度評価の視点

(1)　令和元年度の年度計画の実施状況に対する評価の視点

年度計画に沿った病院運営が行われ、県民に提供するサービスその他の業務の質の向上、業務運営の改善及び効率化並びに財務内容の改善が図られているかどうかを検証し、取組の状況及び成果について評価を行う。

(2)　平成30年度評価の「今後に向けた課題」への取組に対する評価の視点

平成30年度評価で指摘した課題を克服するため、具体的な取組が行われ、改善されているか、あるいは改善の見込みがあるかどうかを検証し、課題への対応状況について評価を行う。

(3)　中期目標の期間（平成27～令和元年度）の進捗状況に対する評価の視点

令和元年度における取組が、中期計画の着実な達成のために十分なレベルに達しているかどうかを検証し、中長期的な視点から評価を行う。

４　評定区分と業務実績の関係

評定区分	判断の目安となる業務実績
S	年度計画を大幅に上回って達成している （定量的目標においては年度計画値の120％以上）
A	年度計画を達成している （定量的目標においては年度計画値の100％以上120％未満）
B	年度計画を下回っており、改善を要する （定量的目標においては年度計画値の80％以上100％未満）
C	年度計画を大幅に下回っており、抜本的な改善を要する （定量的目標においては年度計画値の80％未満）

５　地方独立行政法人長野県立病院機構評価委員会の意見聴取

年度評価を行うにあたり、長野県附属機関条例及び実施要領の規定に基づき、地方独立行政法人長野県立病院機構評価委員会（以下「評価委員会」という。）を７月 31 日、８月６日及び８月 21 日に開催し意見を聴取した。

〔地方独立行政法人長野県立病院機構評価委員会委員名簿〕

氏　名	役　職　等
鮎　澤　英　之	あがたグローバル税理士法人　公認会計士、公認不正検査士
○小　口　壽　夫	諏訪赤十字病院　名誉院長
川　合　　博	前伊那中央病院院長
田　下　佳　代	弁護士　県人事委員会委員
浜　田　　淳	岡山大学大学院　医歯薬学総合研究科　教授
宮　坂　佐和子	諏訪赤十字病院　副院長兼看護部長
山　上　哲　生	大日本法令印刷株式会社　代表取締役社長

（50音順、敬称略、○は委員長）

第２　評価結果

１　総合評価

県による評定	A	病院機構による評定	A

業務の質、運営・財務状況等いずれの観点についても、概ね年度計画を達成していると認められる。

(1)　県民に提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

○各県立病院は、政策医療や高度・専門医療を提供し、その使命と役割を果たすとともに、地域の医療機関との連携を進めるなど、目標は達成しているものと認められる。

(2)　業務運営の改善及び効率化に関する事項

○病床利用率は全病院で目標未達成であり、課題は残すものの、病床の削減や転換など病床利用率向上に向けた取組がされていること、働き方改革への的確な対応や、病院機構が一体となって業務運営の改善に取り組んだことから、目標は概ね達成されていると認められる。

(3)　財務内容の改善に関する事項

○資金収支については流出超過ではあるが、年度計画は達成した。経常損益は、経常費用の伸びが経常収益の伸びを上回り経常損失となって目標を達成しなかった。

【今後取り組むべき課題】

○医療を取り巻く環境が大きく変化しているなか、病院機構として県民の命を守る地域医療や専門医療を持続的に担っていくため、引き続き地域のニーズに対応し、医療の質の向上を図るとともに、経営改善の取組を継続されたい。

２　項目別評価

(1)　大項目「第１　県民に提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項」の評価

県による評定	A	病院機構による評定	A

各県立病院は、政策医療や高度・専門医療を提供し、その使命と役割を果たすとともに、地域の医療機関との連携を進めるなど、目標は達成しているものと認められる。

①　医療・介護サービスの提供体制改革を踏まえた地域医療、高度・専門医療の提供

○阿南病院及び木曽病院は、無医地区への巡回診療や診療所の支援を通じ、へき地における医療提供により県立病院の使命を果たした。

○信州医療センターでは第二種感染症指定医療機関としてCOVID-19に対応するなど、第二種感染症指定医療機関としての役割を果たした。

○こころの医療センター駒ヶ根では、子どものこころ診療センターを開設し、児童・思春期精神医療の充実が図られた。

○こども病院は、小児中核病院、高度救命救急医療に加え、県の総合周産期母子医療センターとしての役割を果たした。

②　地域における連携とネットワークの構築による医療機能の向上

○高額医療機器の共同利用の促進や、紹介率の向上、医師の派遣等地域の医療機関との連携を積極的に推進するなど、地域における連携の向上につながったと認められる。

③　人材の確保・育成と県内医療水準の向上への貢献

○研修センターではスキルスラボの共同利用の推進や、研修会等への講師派遣により、県内医療水準の向上に貢献したと認められる。

○こども病院において連携大学院を開設し、より専門性の高い医療人材の育成を開始したほか、信州木曽看護専門学校においては看護師国家試験の合格率が96％となり、県内医療機関への就職率も90％を超えるなど地域医療に貢献する看護人材を輩出したことなど、人材の確保・育成に資する取組が進められたと認められる。

④　県民の視点に立った安全・安心な医療の提供

○各病院で院内の医療安全相互点検や研修会を実施するなど、安全・安心な医療の提供につながる取組と認められる。

【今後取り組むべき課題】

○COVID-19に対して必要な対策を状況の変化に応じて講じ、感染防止に重点を置いて医療の提供に努められたい。

○引き続き、県民に対し、質の高い医療サービスを効果的に提供していただきたい。

○連携大学院教育や信州木曽看護専門学校の運営を通じて県内の医療機関に従事する人材を積極的に養成し、県内の医療水準の向上、人材の輩出に努められたい。

○逆紹介率を向上させ、機能的役割分担のもと、地域の医療機関との連携をさらに図っていただきたい。

○最新のＩＣＴ技術を活用した画像診断や病理診断、遠隔医療等にも取り組まれたい。

○安心に在宅医療に移行できるように、訪問看護、訪問リハビリの一層の充実に努められたい。

ア　小項目別の評定

小項目	県の評定	機構の評定
１　医療・介護サービスの提供体制改革を踏まえた地域医療、高度・専門医療の提供		
（１）地域医療の提供	A	A
（２）地域包括ケアシステムにおける在宅医療の推進	A	A
（３）高度・専門医療の提供	A	A
（４）災害医療などの提供	A	A
（５）医療におけるＩＣＴ（情報通信技術）化の推進	A	A
２　地域における連携とネットワークの構築による医療機能の向上		
（１）地域の医療、保健、福祉関係機関などとの連携	A	A
（２）５病院のネットワークを活用した診療協力体制の充実強化	A	A
３　人材の確保・育成と県内医療水準の向上への貢献		
（１）医療従事者の確保と育成	A	A
（２）県内医療に貢献する医師の育成と定着の支援	A	A
（３）信州木曽看護専門学校の運営	A	A
（４）県内医療水準の向上への貢献	A	A
（５）医療に関する研究及び調査の推進	A	A
４　県民の視点に立った安全・安心な医療の提供		
（１）より安全で信頼できる医療の提供	A	A
（２）患者サービスの一層の向上	A	A

イ　数値目標に対する達成状況

(ｱ)　患者数

入院は目標を上回った病院はなく、阿南病院で大きく下回った。外来はこころの医療センター駒ヶ根、木曽病院及びこども病院で目標を上回った。

区　　分		令和元年度 実　績(a)	令和元年度 目標値(b)	対目標比 (a)/(b)
信州医療センター	入院	88,942人	90,261人	98.5%
	外来	120,749人	123,535人	97.7%
こころの医療センター駒ヶ根	入院	37,400人	38,228人	97.8%
	外来	41,189人	37,200人	110.7%
阿南病院	入院	17,053人	21,300人	80.1%
	外来	46,882人	49,254人	95.2%
木曽病院	入院	43,450人	49,037人	88.6%
	外来	125,512人	125,475人	100.0%
こども病院	入院	52,647人	54,675人	96.3%
	外来	66,776人	66,557人	100.3%

(ｲ)　在宅医療件数（訪問診療・看護・リハビリ）

３病院が目標を上回った。

区　　分	令和元年度 実　績(a)	令和元年度 目標値(b)	対目標比 (a)/(b)
信州医療センター	8,829件	7,460件	118.4%
こころの医療センター駒ヶ根	1,982件	1,750件	113.3%
阿南病院	2,104件	2,200件	95.6%
木曽病院	5,438件	4,850件	112.1%

(ｳ) 紹介率及び逆紹介率

紹介率はこども病院で下回った。逆紹介率は阿南病院と木曽病院で目標を上回った。

区　　分		令和元年度 実　績(a)	令和元年度 目標値(b)	対目標増減 (a)-(b)
信州医療センター	紹介率	66.2%	59.4%	6.8ポイント
	逆紹介率	13.0%	16.7%	△3.7ポイント
阿南病院	紹介率	22.5%	20.0%	2.5ポイント
	逆紹介率	15.3%	15.0%	0.3ポイント
木曽病院	紹介率	28.1%	25.0%	3.1ポイント
	逆紹介率	21.5%	17.0%	4.5ポイント
こども病院	紹介率	75.4%	77.0%	△1.6ポイント
	逆紹介率	75.1%	80.0%	△4.9ポイント

(ｴ) 認定資格の取得人数

区　　分	令和元年度実績	令和元年度目標値
認定看護師資格	１人	２人

ウ　昨年度指摘された課題への取組

課題	県の評価
費用対効果を考慮しつつ、地域の需要に応えていくため、今後も病院機構に必要な人材の確保と養成に努めていただきたい。	こども病院で新たに連携大学院教育を始めるなど、専門性の高い医療従事者の育成と人材の確保に取り組んだことが認められた。
引き続き、県内の医療機関に従事する人材を積極的に養成することで、県内の医療水準の向上に貢献していただきたい。	連携大学院教育や研修センターの指導者育成など、人材を積極的に養成し、県内医療の水準の向上に努めたことが認められた。
地域の医療・介護資源を効果的に活用するため、地域医療構想及び地域医療構想調整会議での議論を踏まえ、地域の医療機関との機能分化・連携を図るとともに、病院規模を中長期的な視点での検討及び取組を始めていただきたい。	木曽病院で医療の質の向上を目指し病床数を削減するなど取組が進んだほか、地域に必要な医療提供体制について具体的な検討が進んでいることが認められた。

(2)　大項目「第２　業務運営の改善及び効率化に関する事項」の評価

県による評定	A	病院機構による評定	A

「病床利用率の向上」は課題を残すものの、年度計画を達成していると認められるところ。

①　法人の力を最大限発揮する組織運営体制づくり

○勤怠管理システムの導入による職員の正確な勤務時間の把握等、働き方改革への対応が進んでいる。

○経営に一体的に取り組むための意識向上が必要であるが、第３期中期計画を作成する過程で機構職員の経営参画意識の向上が認められる。

②　経営力の強化

○月次決算を毎月機構の組織全体で共有し、職員の経営意識の醸成が図られている。

③　経営改善の取組

○病床利用率は、すべての病院で平成30年度を下回り、目標も下回った。

○なお、木曽病院の許可病床の削減（239床→199床）や介護療養病床の介護医療院への転換（20床）については、経営改善の取組として評価できるものの、病床利用率の改善には至らなかった。

【今後取り組むべき課題】

○働き方改革関連法を踏まえ、収支バランスを考慮した上で、必要な措置を検討し、実行していただきたい。

○職員給与費対医業収益比率は改善している病院もあるが、今後の持続的な病院運営に向け、適正かつ効率的な人員配置に向けた取組を継続していただきたい。

○病床利用率の向上に向け、各病院で様々な取組を実行してきたことは認められる一方、中期計画で定めた目標を令和元年度実績で下回る病院もあることから、引き続き、各病院において新規入院患者の増加に向けた取組を進めるとともに、中長期的な視点で病院機能の見直しや、病院規模を検討していただきたい。

ア　小項目別の評定

小項目	県の評定	機構の評定
１　法人の力を最大限発揮する組織運営体制づくり		
（１）柔軟な組織・人事運営	A	A
（２）仕事と子育ての両立など多様な働き方の支援	A	A
２　経営力の強化		
（１）病院経営に一体的に取り組むための職員意識の向上	A	A
（２）経営部門の強化	A	A
３　経営改善の取組		
（１）年度計画と進捗管理	A	A
（２）収益の確保と費用の抑制	A	A
（３）情報発信と外部意見の反映	A	A
（４）病床利用率の向上	B	B

イ　数値目標に対する達成状況

(ｱ)　医療材料費／医業収益比率

こころの医療センター駒ヶ根、阿南病院、木曽病院で目標を達成した。

区　　分	令和元年度 実　績(a)	令和元年度 目標値(b)	対目標増減 (a)-(b)
信州医療センター	27.4%	26.8%	0.6ポイント
こころの医療センター駒ヶ根	5.9%	6.1%	△0.2ポイント
阿南病院	16.1%	16.6%	△0.5ポイント
木曽病院	21.4%	23.0%	△1.6ポイント
こども病院	21.9%	20.0%	1.9ポイント

(ｲ)　ジェネリック医薬品使用率

３病院で目標を上回った。

区　　分	令和元年度 実　績(a)	令和元年度 目標値(b)	対目標増減 (a)-(b)
信州医療センター	91.7%	90.0%	1.7ポイント
阿南病院	86.7%	85.0%	1.7ポイント
木曽病院	81.9%	85.0%	△3.1ポイント
こども病院	88.6%	80.0%	8.6ポイント

(ｳ)　病床利用率

全病院で目標を下回った。

区　　分	令和元年度 実　績(a)	令和元年度 目標値(b)	対目標 (a)-(b)
信州医療センター	79.9%	83.8%	△3.9ポイント
こころの医療センター駒ヶ根	78.1%	80.0%	△1.9ポイント
阿南病院	57.4%	70.0%	△12.6ポイント
木曽病院	69.4%	78.6%	△9.2ポイント
こども病院	73.1%	77.5%	△4.4ポイント

≪病床数≫

・信　州　　平成30年11月まで226床、12月から215床（結核病床、感染症病床、地域包括ケア病床を除く）

・駒ヶ根　　129床

・阿　南　　平成30年12月まで85床、平成31年１月から77床

・木　曽　　令和２年２月まで154床、３月から151床

・こども　　180床

ウ　昨年度指摘された課題への取組

課題	県の評価
収支の大幅な改善につながった経営改善プログラムについて、取組を続けるとともに、進捗状況を把握し成果と課題を分析することで、今後の経営改善に活かしていただきたい。また、プログラム作成から期間が経過し、状況が変化していることも考えられることから、収益の確保と費用の抑制に向けた新たな取組についても積極的に検討し、実行していただきたい。	経営改善プログラムの取組が進められたほか、新たな収益の確保と費用の抑制に取り組んだことが認められた。
働き方改革関連法を踏まえ、各病院を持続的に運営し地域の医療を守るために、必要な措置を検討し、積極的に実行していただきたい。	働き方改革関連法に対しては、独自の人事給与システム及び勤怠管理システムを導入するなど、取組が進んだことが認められた。
令和２年度の診療報酬改定への対応について、医療の質の向上と経営効率の観点から、研究及び分析を行うとともに、速やかに実行できるように取り組んでいただきたい。	令和２年度の診療報酬改定については、各病院で情報収集に努め、速やかに分析・対応し、病院経営の改善に積極的に取り組んでいることが認められた。
職員給与費対医業収益比率は改善している病院もあるが、今後の持続的な病院運営に向け、適正かつ効率的な人員配置に向けた取組を継続するとともに、給与制度の見直しの取組をさらに進めていただきたい。	看護職員の適正な人員配置の取組を進め、働き方改革にも対応できる合理的な職場運営が認められた。

(3)　大項目「第３　財務内容の改善に関する事項」の評価

県による評定	B	病院機構による評定	B

資金収支については流出超過ではあるが、年度計画は達成した。経常損益は、経常費用の伸びが経常収益の伸びを上回り経常損失となって目標を達成しなかった。

①　経常黒字の維持

○経常損益は、経常収益が増加したものの、給与などの費用の増が上回ったことから年度計画を下回り、目標を達成していない（計画1.7千万円の黒字に対し、実績▲1.4億円）。

○なお、当該年度の経常損益へのCOVID-19の影響については限定的であったと認められ、信州医療センターにおける令和２年３月分の損益に影響があったと推察される。

②　資金収支の均衡

○資金収支は、長期借入金の元金・利息の償還金額が依然として高い水準にあり、均衡しなかったが、▲9.1億円の流出超過の計画に対し▲8.3億円と年度計画よりも抑制された。

○しかしながら、単年度の流出超過は巨額であり、今後の運営に影響が出るおそれが大きい。

【今後取り組むべき課題】

○収益の確保と費用の抑制に向けた新たな取組についても積極的に検討し、実行していただきたい。

○前年度比で経常収益１億円の増に対して、経常費用は６億６千万円増であり、費用増を分析し、費用抑制に取り組まれたい。

○資金収支の長期見通しについては、今後さらに支出の増大が見込まれるため、資金収支を念頭に運営に当たっていただきたい。

ア　小項目別の評定

小項目	県の評定	自己評定
１　経常黒字の維持	B	B
２　資金収支の均衡	C	C

イ　数値目標に対する達成状況

(ｱ)　損益の状況（病院機構全体）

（単位：千円）

科　　目	令和元年度決算	平成30年度決算	令和元年度計画	増減（元-30）	増減（決算-計画）
経常収益（ア）	23,862,966	23,763,042	23,720,414	99,923	142,552
医業収益	17,401,578	17,303,748	17,351,524	97,830	50,054
うち入院収益	12,402,744	12,481,914	12,539,676	▲ 79,170	▲136,932
うち外来収益	4,523,529	4,352,810	4,345,946	170,719	177,583
介護老人保健施設収益	355,078	361,728	378,532	▲ 6,650	▲ 23,454
看護師養成所収益	19,098	18,846	20,397	252	▲ 1,299
運営費負担金収益	5,480,000	5,480,000	5,480,000	0	0
その他経常収益	607,212	598,720	489,961	8,491	117,251
経常費用（イ）	24,006,064	23,345,675	23,702,958	660,389	303,106
医業費用	22,034,396	21,458,844	21,766,264	575,552	268,132
うち給与費	12,6786470	12,449,220	12,575,997	229,427	102,650
うち材料費	4,036,619	3,817,198	3,848,655	219,421	187,964
うち減価償却費	1,941,139	1,944,244	1,948,637	▲ 3,104	▲ 7,498
うち経費	3,314,198	3,182,899	3,313,770	131,299	428
介護老人保健施設費用	443,952	424,040	439,826	19,912	4,126
看護師養成所費用	151,977	154,907	145,043	▲ 2,930	6,934
一般管理費	340,197	319,787	337,439	20,411	2,758
財務費用（支払利息）	356,111	404,026	363,281	▲ 47,914	▲ 7,170
その他経常費用	679,430	584,072	651,105	95,359	28,325
経常損益（ア-イ）	▲ 143,098	417,367	17,456	▲ 560,465	▲ 160,554
臨時損益（ウ）	▲ 4,841	▲ 612	▲ 320	▲ 4,229	▲ 4,521
当期純損益（ア-イ+ウ）	▲ 147,940	416,755	17,136	▲ 564,694	▲ 165,076

※端数処理のため、内訳と合計が一致しない箇所がある。

(ｲ)　損益の状況（病院等別：前年度実績との比較）

（単位：千円）

科目	区分	信州	駒ヶ根	阿南	木曽	こども	老健	看護師養成所	本部	計
経常収益	R元	7,178,692	2,016,780	1,710,432	4,013,583	8,321,911	464,266	131,253	26,049	23,862,966
	H30	6,810,706	1,987,337	1,795,555	4,242,095	8,301,002	470,447	131,598	24,303	23,763,042
	差引	367,986	29,443	▲ 85,123	▲ 228,512	20,909	▲ 6,181	▲ 345	1,746	99,923
経常費用	R元	7,167,894	2,026,972	1,623,220	3,987,245	8,225,732	477,425	153,724	343,853	24,006,064
	H30	6,678,365	2,021,044	1,623,273	4,157,571	7,927,275	460,336	156,188	321,624	23,345,675
	差引	489,529	5,928	▲ 53	▲ 170,326	298,457	17,089	▲ 2,464	▲ 22,229	660,389
経常損益	R元	10,798	▲ 10,192	87,212	26,338	96,179	▲ 13,159	▲ 22,471	▲ 317,804	▲ 143,098
	H30	132,341	▲ 33,708	172,282	84,524	373,728	10,111	▲ 24,590	▲ 297,321	417,367
	差引	▲ 121,543	23,516	▲ 85,070	▲ 58,186	▲ 277,549	▲ 23,270	2,120	▲ 20,483	▲ 560,465
純損益	R元	8,710	▲ 10,653	87,130	24,672	95,635	▲ 13,159	▲ 22,471	▲ 317,804	▲ 147,940
	H30	134,134	▲ 33,837	170,827	84,521	373,291	10,111	▲ 24,590	▲ 297,703	416,755
	差引	▲ 125,424	23,184	▲ 83,697	▲ 59,849	▲ 277,656	▲ 23,270	2,120	▲ 20,483	▲ 564,694

※端数処理のため、内訳と合計が一致しない箇所がある。

(ｳ)　損益の状況（病院等別：年度計画との比較）

（単位：千円）

科目	区分	信州	駒ヶ根	阿南	木曽	こども	老健	看護師養成所	本部	計
経常収益	R元（決算）	7,178,692	2,016,780	1,710,432	4,013,583	8,321,911	464,266	131,253	26,049	23,862,966
	R元（計画）	6,842,796	1,993,892	1,832,943	4,209,449	8,184,221	483,527	132,563	41,023	23,720,414
	差引	335,896	22,888	▲ 122,511	▲ 195,866	137,690	▲ 19,261	▲ 1,310	▲ 14,974	142,552
経常費用	R元（決算）	7,167,894	2,026,972	1,623,220	3,987,245	8,225,732	477,425	153,724	343,853	24,006,064
	R元（計画）	6,812,499	2,085,729	1,638,969	4,166,852	8,037,874	473,722	146,473	340,840	23,702,958
	差引	355,395	▲ 58,757	▲ 15,749	▲ 179,607	187,858	3,703	7,251	3,013	303,106
経常損益	R元（決算）	10,798	▲ 10,192	87,212	26,338	96,179	▲ 13,159	▲ 22,471	▲ 317,804	▲ 143,098
	R元（計画）	30,297	▲ 91,837	193,974	42,597	146,347	9,805	▲ 13,910	▲ 299,817	17,456
	差引	▲ 19,499	81,645	▲ 106,762	▲ 16,259	▲ 50,168	▲ 22,964	▲ 8,561	▲ 17,987	▲ 160,554
純損益	R元（決算）	8,710	▲ 10,653	87,130	24,672	95,635	▲ 13,159	▲ 22,471	▲ 317,804	▲ 147,940
	R元（計画）	30,297	▲ 92,157	193,974	42,597	146,347	20,655	▲ 13,910	▲ 299,817	17,136
	差引	▲ 21,587	81,504	▲ 106,844	▲ 17,925	▲ 50,712	▲ 22,964	▲ 8,561	▲ 17,987	▲ 165,076

※端数処理のため、内訳と合計が一致しない箇所がある。

(ｴ)　資金収支の状況（病院機構全体）

（単位：円）

区　　分	令和元年度 実　績(a)	令和元年度 予算額(b)	差額 (a)-(b)
収入			
営業収益	23,219,365,413	23,131,500,000	87,865,413
営業外収益	581,948,264	547,839,000	34,109,264
資本収入	917,705,995	1,313,471,000	▲ 395,765,005
臨時利益	57,807	0	57,807
計　(ｱ)	24,719,077,479	24,992,810,000	▲ 273,732,521
支出			
営業費用	21,670,023,023	21,679,742,000	▲ 9,718,977
営業外費用	398,061,626	399,441,000	▲ 1,379,374
資本支出	3,483,477,619	3,823,462,000	▲ 339,984,381
臨時損失	2,250,500	320,000	1,930,500
計　(ｲ)	25,553,812,768	25,902,965,000	▲ 349,152,232
単年度資金収支　(ｱ)-(ｲ)	▲ 834,735,289	▲ 910,155,000	75,419,711

(ｵ)　医業収支の状況（病院別）

（単位：百万円）

区　　分		平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和 元 年度
信州医療センター	収益	4,839	5,359	5,230	5,444	5,633	5,928
	費用	5,867	6,191	6,160	6,369	6,374	6,814
	差引	▲1,028	▲ 832	▲ 930	▲ 925	▲ 741	▲ 885
こころの医療センター駒ヶ根	収益	1,421	1,287	1,245	1,310	1,301	1,325
	費用	1,974	1,869	1,902	1,904	1,952	1,954
	差引	▲ 553	▲ 582	▲ 657	▲ 594	▲ 651	▲ 628
阿南病院	収益	895	871	930	963	920	862
	費用	1,596	1,574	1,566	1,587	1,566	1,563
	差引	▲ 701	▲ 702	▲ 636	▲ 623	▲ 647	▲ 701
木曽病院	収益	3,473	3,668	3,397	3,144	3,181	2,975
	費用	4,039	4,415	4,271	4,070	3,986	3,827
	差引	▲ 566	▲ 747	▲ 874	▲ 926	▲ 805	▲ 853
こども病院	収益	5,830	5,660	5,909	5,953	6,269	6,309
	費用	7,186	7,149	7,455	7,445	7,580	7,875
	差引	▲1,356	▲1,488	▲1,547	▲1,492	▲ 1,311	▲ 1,566
病院計	収益	16,458	16,846	16,710	16,814	17,304	17,402
	費用	20,662	21,197	21,355	21,375	21,459	22,034
	差引	▲4,204	▲4,351	▲4,645	▲4,561	▲ 4,155	▲ 4,633

※端数処理のため、内訳と合計が一致しない箇所がある。

ウ　病院別の経営指標

(ｱ)　医業収支、医業収益に対する職員給与費比率の状況

（単位：千円、％）

項目	区分	信州	駒ヶ根	阿南	木曽	こども
医業収益	R元	5,928,841	1,325,695	862,457	2,975,300	6,309,286
	H30	5,633,408	1,300,933	919,519	3,180,699	6,269,189
	増減	295,433	24,761	▲ 57,062	▲ 205,400	40,097
医業費用	R元	6,814,094	1,954,136	1,563,163	3,827,919	7,875,085
	H30	6,374,362	1,951,899	1,566,221	3,986,164	7,580,198
	増減	439,733	2,236	▲ 3,059	▲ 158,246	294,887
医業収支 （医業収益－医業費用）	R元	▲ 885,254	▲ 628,441	▲ 700,705	▲ 852,619	▲ 1,565,799
	H30	▲ 740,954	▲ 650,966	▲ 646,702	▲ 805,465	▲ 1,311,009
	増減	▲ 144,300	22,525	▲ 54,003	▲ 47,154	▲ 254,790
職員給与費	R元	3,553,407	1,367,771	926,002	2,236,117	4,595,350
	H30	3,579,601	1,388,547	894,254	2,249,211	4,337,605
	増減	▲ 26,195	▲ 20,776	31,748	▲ 13,095	257,745
職員給与費／医業収益比率	R元	59.9	103.2	107.4	75.2	72.8
	H30	63.5	106.7	97.3	70.7	69.2
	増減	▲ 3.6	▲ 3.5	10.1	4.5	3.6

○　信州医療センターでは、医業収益以上に医業費用が大幅に増加したことにより、医業収支が悪化した。また、医業収益に対する職員給与費の比率は、職員給与費が減少し医業収益が増加したため、低下した。

○　こころの医療センター駒ヶ根では、医業収益の増加が医業費用の増加を上回ったことにより、医業収支が改善した。また、医業収益に対する職員給与費の比率は、職員給与費が抑えられため、低下した。

○　阿南病院では、医業費用が減少したものの医業収益の減少が上回ったことにより、医業収支が悪化した。また、医業収益に対する職員給与費の比率は、職員給与費が増加し医業収益が減少したため、大幅に上昇した。

○　木曽病院では、医業収益の減少が医業費用の減少を上回ったことにより医業収支が悪化した。また、医業収益に対する職員給与費の比率は、職員給与費は減少したが医業収益の減少を下回ったため、上昇した。

○　こども病院では、医業収益が増加したものの医業費用の増加が上回ったことにより、医業収支が悪化した。また、医業収益に対する職員給与費の比率は、職員給与費が増加したため、上昇した。

(ｲ)　延患者数、病床利用率、入院・外来収益の状況

（単位：人、％、千円）

項目		区分	信州	駒ヶ根	阿南	木曽	こども
延患者数	入院	R元	88,942	37,400	17,053	43,450	52,647
		H30	90,876	37,515	19,272	48,709	55,723
		増減	▲ 1,934	▲ 115	▲ 2,219	▲ 5,259	▲ 3,076
	外来	R元	120,749	41,189	46,882	125,512	66,776
		H30	120,801	40,051	47,667	127,418	64,946
		増減	▲ 52	1,138	▲ 785	▲ 1,906	1,830
病床利用率		R元	79.9	78.1	57.4	69.4	73.1
		H30	81.2	78.5	60.4	78.1	78.0
		増減	▲ 1.3	▲ 0.4	▲ 3.0	▲ 8.7	▲ 4.9
入院収益		R元	3,873,354	1,025,973	482,443	1,615,866	5,405,108
		H30	3,797,262	1,016,383	546,811	1,733,739	5,387,718
		増減	76,091	9,590	▲ 64,369	▲ 117,873	17,391
外来収益		R元	1,797,622	287,733	331,254	1,260,113	846,806
		H30	1,575,435	270,213	329,359	1,350,739	827,063
		増減	222,187	17,520	1,895	▲ 90,626	19,743

○　信州医療センターでは、入院は急性期一般入院料２の維持、手術件数の増により、外来は外来化学療法や血液内科の治療実績が増え、いずれも増収となった。

○　こころの医療センター駒ヶ根では、入院延患者数は微減したが、入院患者確保の対策を進めており、入院収益の増収につながった。外来延患者数はデイケア患者の利用が増加するなどし、外来収益も増収となった。

○　阿南病院では、整形外科の手術適応患者数が伸びなかったことなどにより、入院収益は減収となった。外来は外科の常勤医師を配置し患者数が伸びたが、全体では患者数が減少した。外来収益は前年度並みを確保した。

○　木曽病院では、入院収益は入院単価は上昇したが、患者数が伸びず大幅な減収となった。外来延患者数の減少により、外来収益も減収となった。

○　こども病院では、高額な手術件数の増加などにより、入院収益が増収となった。外来はアレルギー科などの新設により患者数が増加し、外来収益も増収となった。

エ　昨年度指摘された課題への取組

課題	県の評価
経営に取り組むうえで、資金収支の観点は非常に重要であることから、資金収支の長期見通しを速やかに作成していただきたい。また、作成後は、各年度の決算状況等を踏まえ、更新し続けていただきたい。	資金収支の見通しを立て、分析結果を機構内で共有するなど、積極的な取組を行ったことが認められた。

３　病院等別の評価

(1)　信州医療センター

【特に評価する取組】

○　感染症への対応

・第二種感染症指定医療機関としてCOVID-19に適切に対応したことを評価する。

○　産科医療

・須坂市と連携し、産後うつを予防する取組が「須坂モデル」として先進的な事例として取り上げられるなどし、年度計画を達成したことを評価する。

【今後に向けた課題】

○　県内感染症医療の拠点として、医療関係者の研修等により県内医療の質の向上に積極的に取り組んでいただきたい。

○　内視鏡件数の減少やドック及び各種健診の件数の低下が大きいため、東棟への投資に対する分析と課題の検証をされたい。

○　地域の医療機関との連携及び機能分化において紹介率・逆紹介率は極めて大事なことから、逆紹介率向上に向けて取組強化をされたい。

【昨年度指摘された課題への取組】

課題	県の評価
産科の機能強化や分娩件数の増加に向けた様々な取組、県内の感染症医療の拠点としての機能や医療人材の養成機能等を、積極的に広報して、地域に根付かせていただきたい。	産科医療の充実について広く周知したことが認められた。 分娩件数については、目標を上回った。 今後も取組を続け、数値目標を達成するとともに、須高地域の産科医療機関としての役割を果たしていただきたい。
内視鏡センターの増床について、件数増の取組を広げるとともに、令和元年度中に投資に対する分析を行い、課題を検証することで、今後の投資計画の策定に活かしていただきたい。	内視鏡検査件数の増加に向け、積極的に取り組んだことが認められたが、検査件数については目標・前年度を下回ったことから、課題を整理し、件数増につなげていただきたい。

(2)　こころの医療センター駒ヶ根

【特に評価する取組】

○　児童・思春期精神医療の充実

・子どものこころ診療センターを開設し、発達障がいや児童虐待等への対応を強化したことを評価する。

○　在宅医療の推進

・入院中から、外出・外泊訓練や多職種による訪問など退院後の生活を見据えた支援を行い、３か月以内の再入院率の抑制を図ったことは、在宅医療の推進につながった取組として評価する。

【今後に向けた課題】

○　発達障がいや摂食障がいに加え、ゲーム障害など、ニーズが高まっている児童・思春期精神科医療について、積極的に取組を進めていただきたい。

【昨年度指摘された課題への取組】

課題	県の評価
発達障がいや摂食障がいなど、ニーズが高まっている児童・思春期精神科医療について、引き続き取組を進めていただきたい。	ニーズが高まっている児童・思春期精神医療について、「子どものこころ診療センター」の開設や栄養サポートなど、患者とその家族に対し手厚い支援を行い、取組が進んだことが認められた。

(3)　阿南病院・阿南介護老人保健施設

【特に評価する取組】

○　認知症への対応

・認知機能が低下した方々に適切に対応し、職員の研修を実施するなど認知症の相談を積極的に実施したことを評価する。

○　在宅医療の充実

・訪問診療等の在宅医療を実施し、下伊那南部地域の地域包括ケアシステムの中核的な役割を担うとともに、訪問看護ステーション「さくら」の開設準備を進めたことを評価する。

【今後に向けた課題】

○　病床利用率の向上に向けた取組について、病床削減を試行的に実施するなど、一定の取組がなされているものの、依然、低い傾向にある。ついては、取組をさらに加速させるとともに、地域包括ケア病床への転換など、病床機能の転換や人口減少への対応を積極的に進めていただきたい。

○　介護老人保健施設について、入所者数が減少傾向にあることから、引き続き市町村や事業者と連携し利用者の確保に努めていただきたい。

【昨年度指摘された課題への取組】

課題	県の評価
病床利用率の向上に向けた取組について、病床削減を試行的に実施するなど、一定の取組がなされているものの、依然、低い傾向にある。ついては、向上に向けた短期的な取組をさらに加速させるとともに、持続的な病院運営に向け、病床機能の転換や規模の見直しをさらに進めていただきたい。	令和２年度から、さらに病床削減を図るなど、病床数の適正化についての検討に真摯に取り組んでいることが認められた。地域包括ケア病床の検討など、地域のニーズを把握し、的確に応えていくことを期待する。
介護老人保健施設について、入所者数が減少傾向にあることから、引き続き市町村や事業者と連携し利用者の確保に努めていただきたい。	入所者の減少については問題意識をもって取り組んだことが認められた。

(4) 木曽病院・木曽介護老人保健施設

【特に評価する取組】

○ 地域医療構想への対応

・許可病床数を 239 床から 199 床へと変更したことを評価する。

・介護医療院「ユーライフきそ」を開院し、地域のニーズに応える体制を整備したことを評価する。

【今後に向けた課題】

○ 高齢化社会に対応するため、地域に必要な医療を持続的かつ効率的に提供できるよう、木曽郡内の診療所支援などに引き続き努めていただきたい。

○ 介護老人保健施設の利用について、入所者が減少傾向にあることから、引き続き町村や事業者と連携し利用者の確保に努めていただきたい。

○ 開院した介護医療院の利用者の確保に努めていただきたい。

【昨年度指摘された課題への取組】

課題	県の評価
積極的な取組により、昨年度から入院患者数が増加し、病床利用率が上昇したが、地域の人口は減少傾向にある。ついては、引き続き、地域に必要な医療を持続的かつ効率的に提供できるよう、努めていただきたい。	地域のニーズにあった入院患者の確保に向け、介護医療院を開設するなど、一体的に取り組んだことが認められた。
介護老人保健施設の利用について、通所者を中心に利用者が減少傾向にあることから、引き続き町村や事業者と連携し利用者の確保に努めていただきたい。	入所者の減少については広報活動を推進するなど、積極的な取組が認められた。今後も地域のニーズの把握に努め、利用者の確保を進められたい。
木曽医療圏の唯一の病院として、人間ドック等の予防医療の提供についても、積極的に取り組んでいただきたい。	人間ドックの受診者の確保について、新たな対象者を開拓するなど、積極的な取組が認められた。

(5)　こども病院

【特に評価する取組】

○　地域包括ケアシステムの構築

・訪問診療センターを開設し、医療的ケアが必要な在宅医療を継続する子ども達を積極的に支援したことを評価する。

○　新たなニーズへの対応

・アレルギー外来や頭の形外来の開設など、新たなニーズに積極的に対応したことを評価する。

【今後に向けた課題】

○　給与費が計画・対前年度とも大きく上回っていることから、勤怠管理の工夫などに取り組んでいただきたい。

【昨年度指摘された課題への取組】

課題	県の評価
引き続き、医療安全と経営的な視点を両立する職員配置に努め、今後も県内の小児・周産期医療の最後の砦としての役割を果たしていただきたい。	アレルギー外来の開設など、新たなニーズを把握し、小児・周産期医療の提供に取り組んだことが認められた。

(6)　信州木曽看護専門学校

【特に評価する取組】

○　看護人材の輩出

・学校の強みを活かしたカリキュラムと国家試験への手厚いサポートにより、看護師国家試験に高い合格率を示し、県立病院を始めとする、地域医療を担う医療機関に看護人材を輩出したことを評価する。

【今後に向けた課題】

○　教育の質を維持・向上させ、今後も看護人材を輩出し続けるため、関係機関と連携の上、計画的に教員を確保・養成していただきたい。

○　手厚い生徒のサポートなど学校の強みを広報し、学生確保に努めていただくとともに、看護師国家試験の100％合格を目指して取り組んでいただきたい。

【昨年度指摘された課題への取組】

課題	県の評価
教育の質を維持・向上させ、今後も看護人材を輩出し続けるため、関係機関と連携の上、計画的に教員を確保・養成していただきたい。	機構内で教員の養成に係る問題意識を共有し、看護人材を安定的に排出できるよう体制を整えたことが認められた。
学校の強みを周知するなど、引き続き、積極的に学生確保に努めていただきたい。	様々なメディア利用や、オープンキャンパスの実施など周知を工夫し、学生確保に努めたことが認められた。

(7)　本部事務局

【特に評価する取組】

○　第３期中期計画作成に対する取組

・第３期中期計画を、各病院と機構が目指す方向性等を共有し作成したことは、機構職員の経営に対する意識を高めた取組として評価する。

【今後に向けた課題】

○　ある程度の余裕をもった人員配置は病院経営にとって大事な要素であり、緊急時に支障が出ないことは重要であるが、COVID-19など、不測の事態が生じた際、固定費である給与費の影響は大きいことから、人員の配置に当たっては、医療安全と経営的な視点を両立する観点で適切に行っていただきたい。

○　病院機構全体の管理部門であり、人事・給与制度をはじめ、財務、法務、経営企画、情報システムの管理など業務は多岐にわたっているが、常に経営意識を持って費用の圧縮にも努めていただきたい。

【昨年度指摘された課題への取組】

課題	県の評価
研修センターの取組を広く周知するとともに、スキルスラボの共同利用の促進などにより県内の医療水準の向上にさらに貢献していただきたい。	スキルスラボの周知に努め、共同利用の促進に取り組んだことや、シミュレーション教育指導スキルアップ研修の着実な推進が認められた。

（参考）第２期中期計画との対比

※　「中期計画」の数値は、平成26年度に作成した数値である。

１　経常収支（病院機構全体）

（単位：百万円）

科　　目		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	H27～R元年度累計
経常収益（ア）	決算	23,222	23,095	23,201	23,763	23,863	117,143
	中期計画	23,325	23,202	23,514	23,553	23,614	117,208
医業収益	決算	16,846	16,710	16,814	17,304	17,402	85,076
	中期計画	16,864	16,728	17,046	17,102	17,183	84,923
うち入院収益	決算	11,962	12,005	12,064	12,482	12.403	60,916
	中期計画	12,107	11,960	12,251	12,307	12,380	61,005
うち外来収益	決算	4,445	4,276	4,312	4,353	4,524	21,909
	中期計画	4,339	4,353	4,381	4,383	4,392	21,848
その他医業収益	決算	439	429	439	469	475	2,251
	中期計画	418	416	414	412	411	2,071
介護老人保健施設収益	決算	373	371	375	362	355	1,836
	中期計画	403	403	403	403	403	2,015
その他経常収益	決算	522	534	532	618	626	2,831
	中期計画	579	591	585	568	549	2,872
運営費負担金収益		5,480	5,480	5,480	5,480	5,480	27,400
経常費用（イ）	決算	23,185	23,358	23,324	23,346	24,006	117,220
	中期計画	22,916	22,783	22,806	23,023	22,901	114,429
医業費用	決算	21,197	21,355	21,375	21,459	22,034	107,420
	中期計画	20,867	20,785	20,811	21,068	20,999	104,530
うち給与費	決算	11,912	12,333	12,336	12,449	12,679	61,709
	中期計画	11,683	11,693	11,833	12,137	12,228	59,574
うち材料費	決算	3,898	3,749	3,688	3,817	4,037	19,189
	中期計画	3,634	3,633	3,690	3,695	3,703	18,355
うち減価償却費	決算	2,317	2,256	2,174	1,944	1,941	10,632
	中期計画	2,353	2,257	2,089	1,982	1,897	10,578
その他医業費用	決算	3,070	3,017	3,176	3,248	3,377	15,890
	中期計画	3,196	3,201	3,200	3,254	3,171	16,022
介護老人保健施設費用	決算	434	442	424	424	444	2,168
	中期計画	468	459	455	455	459	2,296
その他経常費用	決算	1,554	1,561	1,526	1,463	1,528	7,632
	中期計画	1,582	1,539	1,540	1,501	1,443	7,603
経常損益（ア-イ）	決算	37	▲ 264	▲ 124	417	▲ 143	▲ 76
	中期計画	409	419	708	530	714	2,780
経常収支比率（ア／イ）		100.2	98.9	99.5	101.8	99.4	99.9
臨時損益（ウ）		▲ 4	0	▲ 7	▲ 1	▲ 5	▲ 17
純損益（ア−イ+ウ）		33	▲ 264	▲ 130	417	▲ 148	▲ 92

※端数処理のため、内訳と合計が一致しない箇所がある。

２　経常収支（病院等別）

（単位：百万円）

区　　分		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	H27～R元年度累計
信州医療センター	決算	91	7	▲ 102	132	11	139
	中期計画	207	213	247	219	308	1,195
こころの医療センター駒ヶ根	決算	36	▲ 41	25	▲ 34	▲ 10	▲ 23
	中期計画	41	51	95	11	▲ 32	166
阿南病院	決算	85	160	208	172	87	712
	中期計画	▲ 60	▲ 57	▲ 40	▲ 37	▲ 40	234
木曽病院	決算	25	▲ 39	▲ 61	85	26	36
	中期計画	311	312	328	288	286	1,525
こども病院	決算	66	6	137	374	96	679
	中期計画	180	148	334	301	439	1,403
介護老人保健施設	決算	0	▲ 6	22	10	▲ 13	14
	中期計画	▲ 2	11	17	19	19	63
看護師養成所	決算	▲ 17	▲ 26	▲ 27	▲ 25	▲ 22	▲ 116
	中期計画	▲ 22	▲ 24	▲ 22	▲ 23	▲ 22	▲ 112
本部	決算	▲ 250	▲ 325	▲ 326	▲ 297	▲ 319	▲ 1,518
	中期計画	▲ 244	▲ 235	▲ 253	▲ 248	▲ 245	▲ 1,225
計	決算	37	▲ 264	▲ 124	417	▲ 143	▲ 76
	中期計画	409	419	708	530	714	2,780

※端数処理のため、内訳と合計が一致しない箇所がある。

３　資金収支

（単位：百万円）

区　　分		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	H27～R元年度累計
現金収入	決算	23,996	25,267	24,428	25,159	24,719	123,568
	中期計画	24,492	25,961	24,479	25,228	24,514	124,675
現金支出	決算	23,907	25,690	24,774	25,396	25,554	125,320
	中期計画	24,224	26,030	24,297	25,501	24,579	124,632
資金収支	決算	89	▲ 422	▲ 346	▲ 238	▲ 835	▲ 1,752
	中期計画	268	▲ 69	182	▲ 273	▲ 65	42

※端数処理のため、内訳と合計が一致しない箇所がある。

4　病院別の主要経営指標

(1)　職員給与費／医業収益比率

（単位：%）

区　　分		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
信州医療センター	実績	63.7	66.5	65.1	63.5	59.9
	計画	61.8	62.1	61.1	62.4	62.1
こころの医療センター駒ヶ根	実績	103.6	110.4	104.3	106.7	103.2
	計画	97.4	97.4	96.7	100.0	102.0
阿南病院	実績	99.9	94.9	91.3	97.3	107.4
	計画	111.8	113.8	117.0	121.4	122.7
木曽病院	実績	60.4	68.5	71.4	70.7	75.2
	計画	59.3	60.0	60.5	62.4	63.0
こども病院	実績	72.1	72.3	72.2	69.2	72.8
	計画	69.3	69.8	68.8	69.6	69.4

(2)　材料費／医業収益比率

（単位：%）

区　　分		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
信州医療センター	実績	23.8	24.5	25.1	25.4	28.5
	計画	25.5	26.2	26.0	25.8	25.7
こころの医療センター駒ヶ根	実績	8.0	7.9	8.4	8.5	8.9
	計画	11.6	11.6	11.6	11.5	11.5
阿南病院	実績	18.7	16.8	17.0	17.2	17.7
	計画	19.2	19.2	19.2	19.2	19.2
木曽病院	実績	32.1	27.5	25.1	23.6	22.5
	計画	25.5	25.5	25.5	25.5	25.6
こども病院	実績	20.8	21.6	21.1	21.8	22.3
	計画	23.0	23.0	23.0	23.0	23.0

(3)　病床利用率

（単位：%）

区　　分		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
信州医療センター	実績	82.1	76.0	79.3	81.2	79.9
	計画	73.4	75.8	75.3	76.1	76.4
こころの医療センター駒ヶ根	実績	77.1	77.4	79.2	78.5	78.1
	計画	79.5	79.8	81.8	81.8	82.2
阿南病院	実績	50.8	58.7	63.7	60.4	57.4
	計画	51.5	51.5	51.5	51.5	51.5
木曽病院	実績	71.1	70.7	64.3	78.1	69.4
	計画	85.4	85.3	84.9	84.6	84.0
こども病院	実績	76.1	76.0	74.5	78.0	73.1
	計画	74.4	74.3	75.3	75.3	75.1

≪病床数≫

・信　州　　平成30年11月まで226床、12月から215床（結核病床、感染症病床、地域包括ケア病床を除く）

・駒ヶ根　　129床

・阿　南　　平成30年12月まで85床、平成31年１月から77床

・木　曽　　平成30年３月まで186床、平成30年４月～154床、令和２年３月から151床

・こども　　180床